

英国イングランドに残存する民俗フットボールについて

—— その多様性と類似性及び変容 ——

吉 田 文 久

要 旨

本研究は、イングランドに残存する民俗フットボールの特徴、さらにそれらの変容について明らかにすることを目的とする。

筆者はこれまで、現地での調査をもとに、英国スコットランドに残存する民俗フットボールの特徴をその多様性と類似性の視点から整理し、公表してきた。そして、イングランドに残存する10箇所のゲームを調査し終えたことから、本研究では、スコットランドのゲームの整理と同様の視点、手続きを用いて、イングランドに残存するゲームの多様性・類似性、そして、それらの変容について考察した。

その結果、①イングランドに残存する民俗フットボールには、いくつかのゲーム間に類似部分はあるものの、スコットランドのような共通性は乏しく、その町や村に独自の形で存続している②メディアにも取り上げられ、プレイヤーも数百人に及ぶゲームがある一方で、セレモニーだけを残すという形骸化したゲーム、そして消滅の可能性を予期させるゲームがあり、存続のために担い手の確保が課題となり、そのための策に苦慮している③スコットランド同様に、イングランドに残存するゲームは、過去のゲーム様式を存続させることに固執することなく、近代化に順応しながらゲームを変容させることで、生き残りを図っている④ただし、ゲームは変容しながらも、従来の伝統的な様式を守り続けるゲームから近代的要素を多く取り入れたゲームまで存在することから、イングランドに残存する民俗フットボールは現在多様な姿で存続しているということが明らかになった。

キーワード：民俗フットボール、多様性、類似性、変容、伝統の継承、近代化

はじめに

現在のサッカーとラグビーの祖型とされるボールゲームは、かつて英国の各地に分布されていた。それは、単なる私的な気晴らしではなく、ある社会的意味を持った民俗として地域の中に深く根を下ろし、また多様な形態を持っていたことから民俗フットボール (Folk Football)¹⁾ と総称される。

この民俗フットボールに関する学問的関心は古く、19世紀初めのJ. ストラットの古典的論文 (Strutt, 1801) においてどのような競技であったかという簡単な描写が見られる。その後、M. シャーマン (Shearman, 1887), F.P. マグーン (Magoun, 1938), M. マーブルズ (Marples, 1954) によって民俗フットボールの姿が紹介されていく。それらにより競技形態の実態をより克明に知ることができるようになった。さらに、競技の特質を学問的に規定する試みも見られるようになった。例えば、E. ダニングとK. シャドによる民俗フットボールを社会学的な視点に基づいて分析し、近代スポーツと対比させ、15項目にわたって「構造的特質」²⁾ を抽出する研究 (ダニング&シャド, 1979) はその代表である。しかしながら、その後、英国においてこの分野の研究の進展や成果の提示はなく、日本においても、唯一、中房が文献を頼りに英国で行われている・いた民俗フットボールを取り上げ、そのゲーム内容の比較検討を試みた研究 (中房, 1991) が見られるのみである。その中房の研究も文献に基づく研究であり、フィールドワークによって、ゲームが民衆にどのように位置づき、実際の試合の様相を踏まえた上で分析・整理されたものではなかった。

そこで筆者は、文献や現地での情報から英国には民俗フットボールがスコットランドに7か所、イングランドに10か所の町や村で現在も行われていることを確認し、1993年より20数年をかけて、単独で現地調査に出かけた³⁾。そして、2015年にそれら17箇所に現存するすべての民俗フットボールの観戦・調査を終えた。

その調査は、上半期は英国スコットランド、下半期はイングランドに残存するゲームを対象に行なわれ、スコットランドに残存するゲームについては、その多様性と類似性の視点によって整理し、報告⁴⁾してきた。よって本研究では、下半期のイングランドでの調査をもとに、スコットランドに残存する民俗フットボールとの比較を含めて、イングランドに残存する民俗フットボールの特徴、さらにそれらがどのように変容してきたかについて明らかにしたい。

I 英国イングランドに残存する民俗フットボールの特徴

英国に残存する民俗フットボールは、北部にスコットランドのオークニー諸島の Kirkwall、ブリテン島の南西部に St Ives, St Columb Major、東部に Alnwick をはじめいくつかの町で、西部に Workington、そして、中央部には Ashbourne というように、英国各地に広がっており、

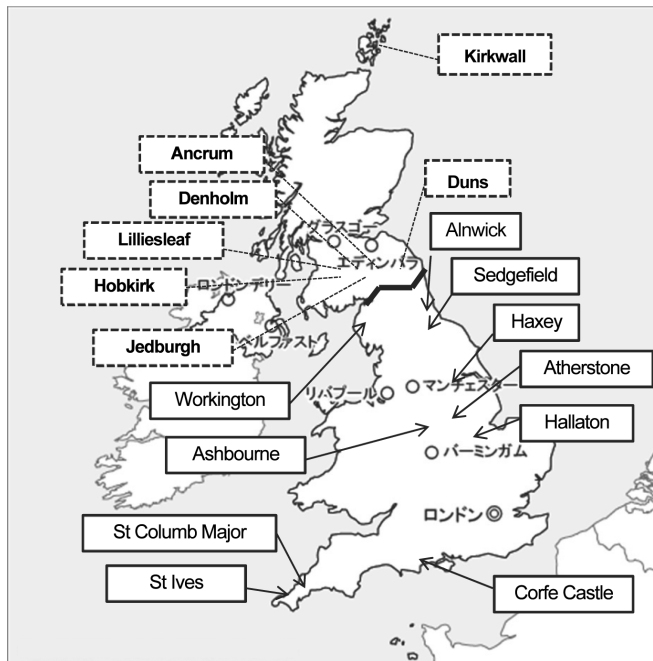


図1【英国に残存する17箇所の民俗フットボールの位置】

かつて民俗フットボールが英国全土で行われていたことが想像される（図1）。また、それらのゲームは、Dunsを除いて冬から春にかけて開催されているが、イングランドでは告解火曜日（Shrove Tuesday）に加えて、いくつかのゲームが復活祭（Easter）の時期に行われている（表1）。

イングランドに残存する10箇所の民俗フットボールの観戦・調査をもとに、スコットランドに残存するゲームの整理に用いた視点をもとに、一覧に整理したのが資料1である。そして、それから独自性、類似性によってゲームの特徴と見られる内容を抽出したのが表2である。

以下では、イングランドとスコットランドに残存するゲームとの比較を含めながら、その特徴について述べる。

イングランドに残存する10箇所の民俗フットボールはイングランド中に散在し、それぞれの町は数千人から2～3万人規模の人口を有している。これは民俗フットボールが残存するスコットランドの町や村が数百人から数千人規模⁵⁾であることと比べると、比較的人口規模の大きな町や都市に存続している。開催日は、告解火曜日、そしてその後の復活祭の時期に集中している。告解火曜日は、教会の歴史の初期の時代から中世にかけて、この日にキリスト教徒はすべて懺悔（shriffs）を行うことを求められ、また同時に、翌日（灰の水曜日 Ash Wednesday）から始まる四旬節の断食期間を前に、たらふく飲み食いをして、どんちゃん騒ぎを許された「休日」であった。その催しとして民俗フットボールが行われたのである。また、キリスト教では復活祭（基本的に春分の日の中の最初の満月の次の日曜日）は、十字架にかけられて死んだキリストが復活したことを記念する最も重要な大祝日とされ、当日、そしてその前後の日にも民俗フットボールが

表1【英国に残存する民俗フットボールの開催日・開始時間】

1月1日(元旦)	Kirkwall (10.30am – boys, 1.00pm – men)
1月6日	Haxey (11.30am – activities, 3.15pm – game)
2月3日後の第1月曜日	St Ives (9.30am – activities, 10.30am – game)
告解火曜日の月曜日	Hobkirk (approx. 4.00pm)
告解火曜日 (Shrove Tuesday)	Ashbourne (2.00pm), Atherstone (3.00pm), Alnwick (2.00pm), Sedgefield (1.00pm), St Columb Major (4.30pm), Lilliesleaf (1:00apm), Corfe Castle (approx. 2:30pm)
灰の水曜日 (告解火曜日の翌日)	Ashbourne (2.00pm)
告解火曜日の土曜日	Ancrum (11.00am – boys, 1.00pm – men)
告解火曜日の月曜日	Denholm (approx. 4.00pm)
告解火曜日の2週後の土曜日	St Columb Major (4.30pm)
聖金曜日	Workington (6.30pm)
復活の月曜日 (復活祭の翌日)	Hallaton (11.00am – activities, 3.00pm – game)
復活の火曜日 (復活祭の翌々日)	Workington (6.30pm)
復活の火曜日の土曜日	Workington (6.30pm)
7月第2日曜日	Duns (6.00pm)
クリスマス (12月25日)	Kirkwall (10.30am – boys, 1.00pm – men)

(下線：イングランドに残存するゲーム)

行われた。それが現在まで継承されている。しかし、現在ではその告解火曜日は休日（学校は半休日）ではなくなったために、プレイヤーを確保するという意図から、主たる担い手となる高校生や成人の参加を求め、就業時間を考慮しゲームは午後に開催されるようになっている⁶⁾。一方ゲームの終了時間は、スコットランドでは制限されていないが、イングランドでは、Alnwickはじめ4つの町のゲームでは終了時間が設定されている。このように時間的制約の中でプレイすることを求めるのは、時代とともに、あるいは産業革命以降、人々の生活様式、そして時間に対する感覚の変化によるものと言える。

参加するプレイヤーについては、St Ivesを除いて、年齢制限はないとされている。しかし、実際は中高校生、成人がプレイし、女性の参加も認められているが、ゲーム中、女性はスクラムを外から少し押す姿を見るくらいである。ただし、AshbourneとWorkingtonでは過去に女性の勝者⁷⁾が誕生しており、勇敢な女性として勝者のリストに刻まれている。

使用されるボールについては、Kirkwallを除くスコットランドのゲームにおいて5個から10個、あるいはそれ以上の数のボールが用いられる（ボールの数だけゲームが行われる）のに比べ、イングランドでは当日1個のボールの使用がほとんどである。ただし、Ashbourneではゲームの展開によって最大3個のボール、Hallatonでも展開によって最大3個の小さなピア樽がボールとして使われることもある。ボールの仕様（形状・大きさ）は様々で、普段私たちが使っているサッカーボールを使うところ、バスケットボール大やクリケットボール大のボール、ラグビー

表2【イングランドに残存する民俗フットボールの特徴】

- (1) 開催場所
イングランド全域に散在（数千人～2・3万人規模の人口の都市や町）
- (2) 開始日／開催時間／試合時間
 - ① 告解火曜日に集中（それ以降，復活祭期間まで）
 - ② ほとんどが午後に開始……プレイヤーの年齢・仕事と関係による
※告解火曜日は祝祭日ではなくなったことと関係
 - ③ 時間制限を設けるゲームがある
⇒ Alnwick, Ashbourne, Atherstone, St Ives
- (3) プレイヤー（年齢／女性の参加）
 - ① 制限はないが，実際は中高生以上（St Ives のみ小中学生）
 - ② 特に女性の参加を認めないというところはないが，危険なために参加を見合わせている。参加してもスクラムの外から押す程度。ただし，Ashbourne, Workington では，過去に女性の勝者が誕生
- (4) 使用されるボール（数／特徴）
 - ① 各日に1個のボールを使用（1個のボールでその日のゲームを実施）
ただし，ゲーム展開によって，Ashbourne では 各日に2～3個，Hallaton では，当日2～3個のボール（小さなビア樽）が使用される
 - ② 各地固有のボールの特徴をもつ
 - ・通常のサッカーボール……Alnwick, Corfe Castle
 - ・バスケットボール大 or それ以上……Ashbourne, Atherstone
 - ・ひと回り小さなラグビーボール……Workington
 - ・クリケットボール大……Sedgefield, St Columb Major, St Ives
 - ・円筒型（シリンダー状）の筒……Haxey
 - ・小さなビア樽……Hallaton
 - ③ ボールに装飾（描画，銀装）
 - ・始球者にまつわる事象を絵にして描く（仕事，家族，趣味など）……Ashbourne
 - ・銀のプレートでボールの周りを覆う……St Columb Major, St Ives
※「シルバーボール」と呼ばれている
- (5) チームの区分
 - ① 教区……St Michael' vs St Paul's（Alnwick）
 - ② 地理的区分
 - ・町を二分……Upwards vs Downwards（Ashbourne）, Uppies vs Downies（Workington）,
Town vs Country（St Columb Major）
 - ・町対町……Haxey vs Westwoodside（Haxey）, Hallaton vs Medbourne（Hallaton）
 - ③ 区分なし……Sedgefield, Atherstone, St Ives
- (6) プレイ空間
 - ① 町全体（ストリート，牧草地，空き地）
 - ② 空き地の一区画……Alnwick
 - ③ 二つの町
- (7) ゴール／ゴールまでの距離
 - ① 特定の固定されたゴール……Alnwick, Ashbourne, St Columb Major
 - ② 一定の空間，場所，地域……Workington, St Columb Major, Haxey, Hallaton
 - ③ 片方のゴールのみ……Sedgefield
 - ④ ゴールなし……Atherstone, St Ives,（Corfe Castle：現在はセレモニーのみ）
 - ⑤ ゴール間の距離
200ヤード：Alnwick, 500～600ヤード：Sedgfield,
1.5～2.5km：Workington, St Columb Major, Haxey, Hallaton, 5km：Ashbourne
- (8) プレイヤーの人数
100～150人規模が多く，50名，300人規模も
- (9) 文章化されたルールの有無
Alnwick, Atherstone に明文化されたメモが存在
- (10) 運営組織／運営の経済的基盤
Ainwick, Ashbourne, Atherstone, Hallaton に独自の運営組織（規模には大小がある）が存在
- (11) 勝者への褒美
 - ① 賞金の授与：Alnwick, St Ives（銀貨），Haxey（Running Hood のみ£2）
 - ② ゲームで使用されたボール：Alnwick, Sedgefield, Ashbourne, Atherstone, Workington, St Columb Major, Hallaton
 - ③ ビールの提供：Atherston, Workington, St Columb Major
- (12) 審判の存在
 - ① 「アンパイア」……Alnwick（各チーム2人ずつ，計4人）
 - ② 揉め事を収め，家屋の損壊を防ぐ人たち……Atherstone, Haxey

ボールのような形をしたもの、円筒形、ビア樽など多様である。スコットランドと同様にほとんどがボールの中に詰め物をしているが、Atherstone のゲームのように、中に水が入っているというものもある。ボールの装飾は Ashbourne ではボールを投げ入れる人物の特徴を絵として描き、カラフルにペイント⁸⁾され、また St Columb Major と St Ives では、ボールを銀のプレートで覆った「シルバー・ボール」⁹⁾と呼ばれるボールが使われている。その他のボールは、濃淡はあるが、茶色の革のボールである（図2参照）。



写真1 Almwick



写真2 Ashbourne



写真3 Atherstone



写真4 Sedgefield

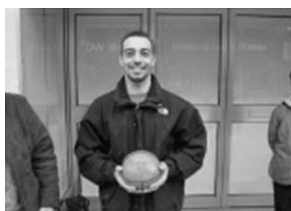


写真5 Workington



写真6 St Columb Major



写真7 Haxey (Haxey Food)



写真8 Hallaton (Bottle Kicking)



写真9 St Ives



写真10 Corfe Castle

図2【イングランドに残存する民俗フットボールで使われているボール】

民俗フットボールは基本的に二つのチームがボールを奪い合い、自陣のゴールへとボールを運ぶことで勝利するとされている。スコットランドのゲームはすべてが、そのように二つのチームに分かれて争われており、イングランドでも、教区、町を南北や東西に二分して、また隣接する町対町が争うという形式が多い中、Sedgefield, Atherstone, St Ives ではチームが消滅し、個人、あるいはグループでプレイするゲームとなっている。

プレイ空間は、町の通りや隣接する町を含めて町全体をコートとしてプレイされるが、Alnwick だけは、町の中から移動し、Alnwick 城と川を挟んで広がる大きな空き地にゴールが設置され、ラインはないが、その範囲をラインズマン（現地ではそう呼ばれてはいないが）の判断に委ねた一定の空間の中でプレイされている¹⁰⁾。

では、それらの空間にはどのようなものがゴールとして設置・設定されているのであろうか。例えば、町のはずれにあるかつて水車小屋があった場所など特定の場所にゴールとして固定された目標物が設置されているゲーム、また、パブをゴールとするゲーム、そして、川を越えた一定の場所など、ある特定の広さの空間や町の境界線を越えればよいといったものまである（写真 11-13）。さらに、かつては二つのゴールが設置されていたのが、Sedgefield のように、片方のゴールが消滅したところ、Atherstone のようにゴールそのものが消滅し、特定の時間が来たときにボールを保持していれば勝者になるというゲームもある。ゴール間の距離も 200m 程度から



写真 11 水車小屋の跡につくられたゴール (Ashbourne)



写真 12 ゴールとなるパブ (Haxey)



写真 13 小川を越えたところがゴール (Hallaton)

長いところで5km くらいまでに及んでいる。

プレイヤーについては、スコットランドのゲームがかなり小規模¹¹⁾であり、これはその町の人口と関係していると思われるが、イングランドでは100～150名、さらに300名から500名にも及ぶゲームまである。

民俗フットボールには「ルールはない」と地元住民は話すが、ゲームはいつ始めるか、ゴールはどこで、どうなるとゲームは終了するかといった約束事は存在する。しかし、それらを含め、明文化されることはなく、地元の人たちには常識であることをわざわざ文章に残す必要性がなかった。実際、ルールと謳って公式に文章化されたものはほとんど見当たらないが、Anwick と Atherstone にはメモのようなものが存在し、Alnwick では、委員会の内部資料（資料2）とされる印刷物を入手した¹²⁾。

現在まで存続してきているゲームでは、特定の人物がコーディネーターを務め、プレイヤーは気まぐれに集まり、ゲームが行われているというゲームがある一方、Alnwick をはじめとする4つの町や都市ではゲームを運営する委員会組織が存在し、その組織がゲームのための資金集め、ボールの準備、始球者の決定、勝者への褒美の準備などゲームを組織的に運営し、経済的基盤を築き、ゲーム存続の責任を担っているところもある。

大変激しい争いの中で勝者となった人物に与えられる褒美は、スコットランドでもそうであったように、ゲームで使われたボールが授与され、また勝者のみならず、勝利したチームのプレイヤーにビールが提供されるというところもある。しかし、イングランドでは勝者に賞金が授与されるというゲームがいくつか存在する。決して高額ではないが、ゲーム参加へのモチベーションになっていることは確かである。

そして、最後に審判の存在であるが、明文化されたルールが存在しないことと関係し、プレイをジャッジする判断材料が示されていないことから、基本的には何でも許され、審判は必要とはされないと考えられる。もし、揉め事が起こったとしても、周りのプレイヤー、特に年配者や冷静な仲間がそれを収め、家屋や塀の損壊を避け住人に迷惑をかけないように自粛的にプレイするよう互いに注意し合うといった行動も見られる。Atherstone や Haxey では、その役割を担う人物が配置され、また Alnwick では、アンパイアと呼ばれる審判が存在し、前記の印刷物には各チームから2名ずつ合計4名のアンパイアが配置するよう規定されている。

以上、イングランドに残存する10か所のゲームの特徴についてまとめたが、スコットランドに比べて、それぞれ独自の内容を持って継承されてきたことが見てとれ、多様性を持ってイングランド各地に存続していることがわかる。

II 英国イングランドに残存する民俗フットボールの変容

ここでは、イングランドに残存するゲームの変容についてまとめた。現地で得た情報やいくつかの資料をもとにして、かつて行われていたゲームの様式がどのように変化・変容したのかにつ

表3 【民俗フットボールの変容内容】

- ① ゲーム空間の制限 [Alnwick, Atherstone]
- ② ゲーム時間の制限 [Alnwick, Sedgefield, Ashbourn, Atherstone]
- ③ 文章化されたルールのメモの存在 [Alnwick, Atherstone]
- ④ チーム区分の喪失 [Athstone, Sedgefield, St Ives]
- ⑤ 審判の存在 [Alnwick]
- ⑥ 2段階のゲーム：本ゲームを盛り上げるプレゲームと本ゲームの二つの楽しみ [Sedgefield, St Columb Major]
- ⑦ ゲームの形態の喪失（セレモニー化）[Corfe Castle]

いて、これまで述べてきたことも含めて改めて整理すると、7つの内容にまとめられる（表3）。

つまり、プレイする空間が町中から一定の制限された空間へ、ゴールするまで行なわれていたゲームが、一定時間内で決着をつけるように時間制限が設けられるようになる。明文化されたルールなどなかったのが、メモのレベルではあるが、それをつくり、共通認識をもつようになった。それは、用い方によってはプレイヤーのみならず、観戦する人のゲームの理解を助けることにつながる。二つのチームが争うゲームが、両方のゴール、あるいは片方のゴールが消滅し、個人やグループでの争いへと変化した。審判が導入されるようになった。そして、本番のゲームの前にゴールを争うのではなく、ボールを投げたり蹴ったり、プレイヤーも観衆もボールに触れるプレゲームが行われるようになったということである。スコットランドでは、この7つの内容が見られないことから、また、完全にセレモニー化した Corfe Castle のゲーム（教会前をスタートし、特定のコースを数人が現在のサッカーボールを蹴りながら戻ってくる。所要時間 15～20 分くらい）の存在など、イングランドのゲームは近代化とせめぎ合いながら、変化を余儀なくされ、あるいは巧みに変容させながら存続してきたと言える。

表4 【Alnwick の現在のゲームの特徴】

- (1) コートは城下の空き地（ゲームのためにゴールが設置され、一定の空間からボールが出ると、ゲームが止められ、ボールが出たあたりからボールが蹴り入れられる）
 - (2) 両ゴールの中心で、選ばれた人物がボールをけり上げてゲームを開始する
 - (3) ゲームは3回行う
 - ・第1、第2ゲームは最大30分（ゴールしたらすぐ次のゲームに）。決着がつかない時は第3ゲーム（最大45分）を実施
 - ・賞金（グッド・プレイヤー：£2、第1・第2ゲームの得点者：£10、第3ゲームの得点者：£20）。最後に川に投入されたボール（試合に用いられた）を奪い合う
 - (4) 市販のサッカーボールを使用
 - (5) 4人のアンパイア（各チーム：St Michael's と St Paul's から）とラインズマンが存在
 - (6) 手を使うことは許されず、ボールはキックしなければならない
 - (7) プレイヤーとして若者（高校生の男女、交換留学生）の参加が多い
- ※ Alnwick では、Shrove Tuesday は休日ではないため、成人男子の参加が少ない

例えば、近代化の要素が多く取り入れられている Alnwick のゲームに注目すると、Alnwick のゲームは、1788 年にゲームの記録が存在することが確認されているが、ゴールやチームに関する記述はなく、Alnwick 城から城主によって投下されたボールをチームに分かれることなく住民たちがキック中心に町全体を巡りながらボールを保持するというゲームであったと言われている¹³⁾。それが表 4 に示したように、コートが空き地へ移動し（1828 年）、二つのチーム（1828 年以降、既婚者対未婚者に、1858 年に St Michael's 対 St Paul's の教区間の戦いへ）に分かれ、ボールを通過させる木枠のゴールが設置されるようになる。その後、審判が任命され、それまで認められていた手の使用が禁止される（1862 年）。そして、ゲームは第三者によるキックオフでスタートし、一定の空間内でのプレイに制限され、1 点先取のゲームが時間制限のある複数得点のゲームに変化する。さらに、ボールは市販のサッカーボールが使用されるようになる（使用されるボールの変化を知る記述は今のところ見当たらない）など近代的要素を取り入れたゲームへと変化した¹⁴⁾。それは民俗フットボールが多様に変容していった中で、極めて近代化したゲームの姿（サッカーをイメージさせるゲーム）を示しており、Alnwick のゲームは民俗フットボールの変容を考察する上で貴重なゲームと言える。

民俗フットボールの変化・変容については、約 90 年前に、英国に残存する民俗フットボールの特徴を整理した文献がある。それは Frank N. Punchard が 1928 年に著した「Survivals of Folk Football」という小冊子¹⁵⁾であり、その Punchard が整理したゲーム内容と筆者が整理した内容の間に差異が認められた事象を表 5 に示した。約 90 年間の変化だけを見ても、Atherstone では、ゲームの存続を担う委員会組織が新設され、St Ives では、チーム区分が消滅し、子どもだけのゲームへと変化している。また、どのゲームも大きく変化したのは、プレイヤーの人数である。数百人規模から 100 ～ 150 人程度へと減少し、担い手が少なくなるという状況に直面している。そして、それまで女性の参加が認められなかったのが、認められるようになった。それは女性の立場の変化や社会進出の影響とも言えるが、ゲームの存続のために減少す

表 5 【1928 年の記録（Frank N. Punchard）との比較】

	運営委員会の存在	密輸・ボールを隠す	チーム名	チーム分け	ボールの材質	ゴール間の距離	ゴールの形状	プレイヤーの人数	町の外部の人の参加	女性の参加
Alnwick								約 300 人⇒約 100 人	なし⇒あり	なし⇒あり
Workington	なし⇒あり 2011年から			坑夫、水夫の職業区分⇒地理的区分へ				数百人⇒100～150 人		
Atherstone					複数のゴムの空気袋⇒水			数百人⇒約 150 人		
St Colum Major		なし⇒あり						数百人⇒70～80 人		なし⇒あり
St Ives		なし⇒あり	Upalong, Downalong⇒消滅	チーム区分の消滅		120 ヤード⇒町中（砂浜、通り）	砂地に立てた 2 本の棒⇒ゴールなし	数百人⇒約 50 人		なし⇒あり

る担い手の確保ということがあってのことだと考えられる。St Ives のゲームはこの 90 年間でチームの区分の消滅、子どもたちだけの参加に加え、ゲームの様相が変化するなどすっかり様変わりしている。

まとめ

以上、英国イングランドに残存する民俗フットボールの特徴及び変容について考察したが、その姿から受け止めたことを整理すると、以下のようにまとめることができる。

- (1) イングランドに残存する民俗フットボールには、いくつかのゲーム間に類似部分はあるものの、スコットランドのような共通性は乏しく、その町や村に独自の形で存続している。
- (2) メディアにも取り上げられ、プレイヤーも数百人に及ぶゲームがある一方で、セレモニーだけを残すという形骸化したゲーム、そして消滅の可能性を予期させるゲームがあり、存続のために担い手の確保が課題となり、そのための策に苦慮している。
- (3) スコットランド同様に、イングランドに残存するゲームは、過去のゲーム様式を存続させることに固執することなく、近代化に順応しながらゲームを変容させることで、生き残りを図っている。
- (4) ただし、ゲームは変容しながらも、従来の伝統的な様式を守り続けるゲームから近代的要素を多く取り入れたゲームまで存在することから、イングランドに残存する民俗フットボールは現在多様な姿で存続している。

今回は、イングランドに残存する民俗フットボールの特徴を整理し、その変化・変容についても検討した。しかし、ではなぜ変化・変容したのか、住民はそれにどのように抵抗し、また受け入れたのかなど、原因・理由や背景にまで迫り切れていない。それは有用な資料が見当たらず、英国においてもこの分野の研究が進展しないことにもよる。今後、現地との接触を深め、さらに情報を収集し、また丁寧に文献・資料を探索することで、それらについて明らかにしていきたい。

註

- 1) ここで用いる民俗フットボールは、Folk Football の訳語である。T. コリンズは、ゲームが伝統を有し、田園から町々をかけめぐり、そして階級を越えてプレイされたことなどから、Folk Football は最も適した用語であるとし、Mob Football は、19 世紀に住民をその恐怖から守るために下された裁判の判決の中で用いられた用語であり、Mass Football も、例えば、ドーキング Dorking で行われたゲームが 1 チームわずか 15 人という人数で行われたということなどから不適切である。そして、Street Football は、街中のストリート上で展開されるゲームを表し、町を離れ、牧場・田園に進行するゲームには当てはまらないと述べている (Collins, 1998 p.25)。
- 2) E. ダニング & K. シャドは、例えば、民俗ゲームは地方社会の構造に内在する、散漫でインフォーマルな組織によって運営・存続されてきたが、近代スポーツは地方、地域、国際各レベルで制度的に分化した、極めてフォーマルな組織によって運営・統括されているなど、民俗ゲームと近代スポーツ構造的

特質の差異を15項目によって整理している(ダニング&シャド, 1979 pp.40-41)。

- 3) 残存する民俗フットボールは、その多くが告解火曜日(Shrove Tuesday)周辺にゲームの開催日が集中してことから、1年に観戦できるゲームは限られており、また複数回訪問することで調査に長い年月を要した。なお、スコットランドから調査を開始したのは、民俗フットボールの存在を知ったのがカークウォール Kirkwall のゲームであり、2000年から2001年にかけてエジンバラ大学スコットランド研究所に在外研究に訪英したことで、スコットランドの調査を集中的に行ったことによる。
- 4) 筆者はこれまで「英国スコットランドに残る民俗フットボールについて—その独自性と類似性」(『スポーツ学の冒険』, 船井・松本他編, 2009, pp.109-119), 「Investigation of The Folk Football Games Surviving in Scotland—the Differences and Similarities—」(名古屋短期大学研究紀要, 第47号, 2009 pp.85-94)等の論文を発表してきた。
- 5) 民俗フットボールが行われている町や村の人口は、スコットランドの7箇所は、Kirkwall—7000人, Jedburgh—4000人, Ancrum—400人, Denholm—600人, Hobkirk—200人, Lilliesleaf—250人, Duns—2600人である。イングランドの10箇所は, Ashbourne—10000人, Alnwick—8000人, Sedgefield—4500人, Atherstone—8300人, St Columb Major—4000人 St Ives—11000人, Workington—25000人 Haxey—4300人, Hallaton—600人, Cofe Castle—1300人である(2010年当時)。
- 6) 英国では、キリスト教に基づき日曜日は安息日とされ、仕事や商業施設は休業しなければならなかった。しかし、現在では日曜日の商業施設は時間が制限されながらも開店することができ、また最近規制緩和が進められているという。このように、英国では時代とともに宗教性が弱まる中、民俗フットボールもその影響を受けて対応を迫られている。
- 7) Ashbourne では、1943年に、告解火曜日と翌日の灰の水曜日に女性の勝者が生まれた。これは第二次世界大戦によって男たちの参加が少ない中でのゲームであったことから女性の勝者誕生が十分予測されるが、その後1957年の告解火曜日に行われたゲームで Downards の Miss Nora Wibberley が勝者となっている (Porter, 2002 pp.217-218)。Workington では、2006年に Uppies の Chatherine Malloy (29歳) が女性で最初の勝者になった (Hornby, 2008 p.168)。しかし、両ゲームともその後女性の勝者は生まれていない。
- 8) 写真2にあるように、英国に残存する17箇所のゲームの中で唯一アッシュボーンで用いられるボールだけがペイントされている。専門のペイント職人 (T. Baker) がボールを始球者である人物にまつわる内容、例えば、その人物の趣味、家屋や家柄を示すもの(皇室の一族ならば、ライオンとユニコーン)、ペット等が描かれ、ゲームの名前・日付も記されている。激しいゲームによってゲーム終了後はペイントがほとんど剥がれてしまうため、勝者にはペイントを描き直して後日授与される (吉田, 2001 pp.30-31)。
- 9) コーンウォール地方(英国南西部地方)のゲームの特徴として、革に詰めものをしてそれを銀のプレートで覆ったボールが使用されている。特に、St Columb Major では、ゲーム終了後に勝者が回る各パブにおいて大きなジョッキにビールをつぎ、その中に銀のボールを入れて飲むことで、幸運が得られるそうである。そのビールは「シルバー・ビア」と呼ばれている。
- 10) 他のゲームが町や村の通りや牧草地などをコートとしてゲームが行われるが、Alnwick では、それまで町中で行われていたゲームが Alnwick 城下にある空き地に2つのゴールを設置し、ボールが一定の範囲を越えて出て行くと審判の指示でゲームが中断・再開される。このようなゲーム専用ゴールを設置してゲーム空間を制限するゲームは Alnwick のゲームだけである。
- 11) スコットランドのゲームでは、Kirkwall の成人のゲームに200～300人が参加する以外は、20人から30人のプレイヤーが参加する小規模なものである(詳細は、吉田, 2014 p.40 参照)。
- 12) アニックのゲームでは、委員会のメンバーの名簿とともにゲームのスタートからゴール、そしてその後のセレモニーに関する内容が8項目にわたって簡単に書かれた1枚のメモが存在する。しかし、これは一般には配布されておらず、委員会のメンバーだけに配布されている。筆者はゲーム後の委員会の会

合に同席するという幸運に恵まれ、それを手にすることができた。

- 13) Garnham, N. (2002) p.1228, Hornby, H. (2008) pp.93-94.
14) Garnham, N. (2002) pp.1236-1242, Hornby, H. (2008) pp.94-96.
15) F.N.Punchard は、1928 年に “Survivals of Folk Football” (Editor of “School Hygiene and Physical Education”, Birmingham, 1928) 出版しているが、そこでは、スコットランドに 9 箇所、イングランドに 7 箇所の残存するゲームの比較検討がされている。それによると、筆者が確認したゲーム以外に、1928 年当時にスコットランドでは、Hawick, St Boswell’s, Yetholm, イングランドには Chester-le-Street で民俗フットボールが行われていたことになる。ただし、Punchard がどのようにしてゲームを発掘したか、その詳細については記載されていない。

文献

- Baker, I. & Baker M. (1947) WOMAN’S VIEW OF ST COLUMB HURLING. *The Journal of the St. Austell Society*, Summer: 5-6.
Bellwood, F. & Sedgefield History Society (1997) *Sedgefield and Bishop Middleham*. The Chalford Publishing Company, p.123.
Collins, T. (1998) *Rugby’s Great Sprit: Class, Culture and the Origins of Rugby League Football*. Frank Cass.
Cooper, J.J. (1993) *A Fool’s Game: The Ancient Tradition of HAXEY HOOD*. Load and Boggins of the Haxeey Hood.
ダニング, E. & シャド, K. : 大西鉄之祐・大沼賢治共訳 (1979) ラグビーとイギリス人: ラグビーフットボール発達の社会学的研究. ペースボールマガジン社.
Deane, T. & Show, T. (1975) *The Folklore of Cornwall*. B.T. Batsford Ltd., pp.162-166.
Douch, H.L. (1966) Sports and Entertainments. *OLD CORNISH INN*, pp.47-52.
Dunn, E. (不明) OLD CUSTOM. *The Story of Our Village*. Sedgefield Woman’s Institute, pp.24-25.
Ellery, P. (2000) *St. Columb Minor Memories & Parish History*. St.Columb Minor Parish Map Project Committee, pp.94-95.
Garnham, N. (2002) Patronage, Politics and Modernization of Leisure in northern England : the case of Alnwick’s Shrove Tuesday football match. *English Historical Review*, cxvii. 474: 1228-1246.
Goodwin, P. (12/02/2009) A feast of fun as town enjoys its traditions. *The Cornishman*.
後藤健生 (2000) フットボールの母国をゆくーアニック城の静寂ー. サッカー批評, 第 6 号 : 7-9.
Goulstone, J. (1996) Shrovetide Football & Related Games. *British Society of Sports History Newsletter*, No.5 Winter: 19-30.
Greenaway, R.D. (1927) THE HURLING GAME: A Study in the Popular Survival of Magical Ritual. *Journal of the Royal Institution of Cornwall*, Vol. XXII: 169-189.
Greenaway, R.D. (2004) *CORNISH HURLING: A Study In The Popular Survival Of Magical Ritual*. Oakmagic Publication.
Hornby, H. (2008) *Uppies and Downies: The extraordinary football games of Britain*. English Heritage.
Jenkin, A.K.H. (1970) *Cornwall and its People*. David & Charles Publishers, pp.456-465.
カイトリー, C. : 澁谷 勉訳 (1992) イギリス祭事・民俗事典 大修館書店.
Magoun, F.P. (1938) *History of Football from the Beginnings to 1871*.
Malcolmson, R.W. (1973) *Popular Recreation in English Society 1700-1859*. Cambridge University Press.
Marples, M. (1954) *A History of Football*. Secker & Warburg.
Murt, E. (1994) Feast Monday—silver ball. *Downlong Days: A St Ives Miscellany*, pp.112-114.

- 中房敏朗 (1990) イギリス中世のフットボール再考. スポーツ史研究, 第3号: 41-46.
- 中房敏朗 (1991) イギリスにおけるフォーク・ゲームの成り立ちとその多様性に関する研究. スポーツ史研究, 第4号: 33-48.
- 日本放送協会 (2002) 熱闘 7000 人ーこれがサッカーのルーツだー (地球に好奇心). NHK BS11. 4月20日放送.
- Noau, C. (1977) Fair Play. *The Book of ST IVES*. Baron Book Limited. pp.101-102.
- Norridge, J. (2008) *Can We Have Our Balls Back, Please?: How the British invented Sport*. Penguin Books, pp.157-171.
- Parratt, C.M. (2000) OF Place and Men and Women: Gender and Topophilia in the “Haxey Hood”. *Journal of Sport History*, Vol.27 No.2: 229-245.
- Paynter, S.W. (1927) OLD CUSTOMS. *OLD ST IVES: The Reminiscences of William Paynter*, pp.45-46.
- Pearce, H.L. (1951-60) THE HURLING GAME AT ST. COLUMB MAJOR, *Old Cornwall*, Vol.5: 384-388.
- Porter, Lindsey. (1992) *ASHBOURNE ROYAL SHROVETIDE FOOTBALL: The Official History*. Ashbourne Editions.
- Porter, Lindsey. (1995) *Ashbourne Shrovetide Football: 100 years in photographs*. Ashbourne Editions.
- Porter, Lindsey. (2002) *SHROVETIDE FOOTBALL AND THE ASHBOURNE GAME*. Landmark Publishing Ltd.
- Porter, Lindsey. (2003) *Ashbourne Royal Shrovetide Football 4th & 5th March 2003*. Landmark Publishing Ltd.
- Priestley, C. (06/02/2008) There's a Ball in there somewhere. *The Northern Echo*.
- Punchard, F.N. (1928) *Survivals of Folk Football*. The editor of “School Hygiene and Physical Education”.
- Rabey, A. (1972) *HURLING AT ST. COLUMB and in Cornwall*. LODENEK PRESS.
- Rabey, I. (1984) *The SILVER BALL: The Story of Hurling at St. Columb*. Edyvean Printers.
- Rabey, I. (1992) The Green Book and Hurling. *About St. Columb*, Edyvean Printers, p.5.
- Rabey, I. (1996) *St. Columb Hurling. St. Columb to the SEA*. Edyvean Printers, pp.8-9.
- Reid, D. A. (1988) Folk-football, the Aristocracy and Cultural Change: A Critique of Dunning and Sheard. *The International Journal of the History of Sport*, Vol.5, No.2: 224-238.
- Reid, M. (12/02/2002) Historic football game is in a league of its own. *The Northern Echo*.
- Rowe, J. (1993) *Cornwall in the Age of the Industrial Revolution*. Cornish Hillside Publishers, pp.10-23.
- Seward, A. (1998) CORNISH RUGBY AND CULTURAL IDENTITY: A Scio-Historical Perspective. BSSH. *The Sports Historian*, No.18-2 (Nov.): 78-94.
- Shearman, M. (1887) *Athletic and Football*, Longmans.
- Strutt, J. (1801) *The Sports and Pastimes of the People of England*. Methuen & Co.
- The Haxey and Westwoodside Heritage Society (1989) THE HAXEY HOOD. *Historic Haxey Parish*. (no page)
- The Haxey and Westwoodside Heritage Society (2001) THE HAXEY HOOD. *HAXEY PALISH THROUGH THE AGES*, p.15.
- Times & Echo (10/02/1922) HURLING SILVER BALL. *Times & Echo*.
- Wallace, K. (1993a) *The Barbarians of Workington: Uppies v Downies*.
- Wallace, K. (1993b) *The Barbarians of Workington II: Uppies v Downies. Castle Curios*.

- Williams, D. (1987a) *Hurling at St Ives. Festivals of Cornwall*. Bossiney Books, pp.16-19.
- Williams, D. (1987b) Hurling at St Columb. *Festivals of Cornwall*. Bossiney Books, pp.20-23.
- 吉田文久 (2001) イングランド・ダービーシャー地方に残る Street Football—Ashbourne の Royal Shrovetide Football—. 名古屋短期大学研究紀要, 第 39 号: 27-37.
- 吉田文久 (2009) 英国スコットランドに残存する民俗フットボールについて—その独自性と類似性—. 船井・松本他編. スポーツ学の冒険. 黎明書房, pp.109-120.
- 吉田文久 (2014). フットボールの原点: サッカー, ラグビーのおもしろさの原点を探る. 創文企画.

資料 1

	Alnwick	Sedgefield	Ashbourne	Atherston	Workington
人 口	8000	4500	10,000	8300	24,300
開催日	告解火曜日	告解火曜日	告解火曜日 & 灰の水曜日	告解火曜日	聖金曜日、復活の火曜日、それに続く土曜日
開始時間、試合時間	午後2時に開始、最大145分（第1ゲーム:30分、第2ゲーム:30分、2ゲームで決着が着かない場合第3ゲーム:45分）	午後1時に開始、およそ午後4時までにスタート地点に戻る、開始後約1時間町の中心地でボールを投げたり蹴ったりする（2つの様相）	午後2時開始、最大午後10時まで、午後5時までにどちらかがゴールすると次のゲームが行われ、さらにそれも午後5時までに終了すると第3のゲームが行われる	午後3時に開始、午後5時まで（最初の90分は儀式的：スリートを行ったり来たりを繰り返す、続く30分はボールの激しい奪い合い：2つの様相）	午後6時30分に開始、時間制限なし（通常3～4時間で終了）
プレイヤーの年齢	制限なし（実際は中学生以上）	制限なし（実際は高校生以上）	制限なし（実際は高校生以上）	制限なし（実際は高校生以上）	制限なし（実際は高校生以上）
使用されるボールの数	1個	1個	各日に1個、両日とも午後5時までに試合が決するともう1個	1個	各日に1個
ボールの特徴	サッカーの公式球（5号球、白）	直径約4インチ、クリケットボール大、中にコルクが詰められ乗馬の鞍に使う革を針で縫い合わせた固いボール	重さ1.5kg、バスケットボール大、ボールにはゲームの開催年の他、始球者の名前、家柄、趣味、これまでの功績などを表すデザインがカラフルに描かれている、中にコルクの削りくずが入っている	直径27インチ（約65cm）アッシュボーンのボールよりひとまわり大きい、重さ約4ポンド、中に水が入っている、RugbyのGilbertによって作られている	重さ2.5ポンド、周囲21インチの大きさに中に羊の毛が詰められている、ボールにはゲームの日付、ボールメーカーの名前が記されている
チーム区分	St. Michael's vs St. Paul's（町を二分する教区）	チーム区分なし（個人あるいはグループ）	Upwards vs. Downwards	チーム区分なし（友人あるいは親族のグループ）	Uppies vs. Downies（スタート地点から西側：Downies、東側：Uppies）
プレイ空間（エリア）	Alnwick 城近くの Alnwick Pastures という空地	町全体	町全体（ゲームは主にストリートか牧草地で展開される）	町のメインストリート	町全体（川べり、芝生の空き地、ストリートなど）
ゴール、ゴールまでの距離	幅4フィート、高さ12フィートのホームベースの形をし、針葉樹で覆われている。ゴール間は約200ヤード	かつての Town チームのゴールのみ（町の中心にある教会から南へ500～600ヤード）	元水車小屋があったところにあるモニュメント：Upwards のゴールは Sturston、Downwards のゴールは Clifton（ゴール間は約5km）	ゴールなし（第2の局面で30分経ったときにボールを所有していたものが勝者となる）	Uppies goal: Workington Hall の庭 Downies goal: Derwent 川の河口にある岬（ゴール間約2km）
プレイヤーの人数（ボールにかかわっている人）	約100人	70～80人	通常200～300人（500～600人規模になることも）	約150人	100～150人
女性の参加	可（アメリカからの交換留学女子高校生も参加）	不可	可（1943年、1957年に女性の勝者誕生、現在は時折、女性がスクラムの外から押している場面を見る）	不可（第2ステージの30分間のゲームにおいて）	可（結構、女性がスクラムの外から押している場面を見る：2006年に初めての女性の勝者が誕生）
ルールの有無	ルールに関する印刷物が存在（手の使用は禁止、オフサイドに近い行為への罰則）	明文化されていない	明文化されていない	明文化されたメモが存在	明文化されていない
運営の組織	あり（Alnwick Shrovetide Football Committee）	なし	あり（Royal Shrovetide Committee）	あり（Atherstone Ball Game Committee：2011年～）	なし（ただし、直接の委員会組織ではないが、Workington Lifeboat という組織がチャリティイベントを催し、募金活動を行っている）
運営の経済的基盤	住民からの寄付	住民からの寄付	住民、地元企業・団体からの寄付	住民からの寄付	住民、スポンサーからの寄付（チャリティなどからも）
始球者	過去の勝者あるいは委員会選出された人物	寄付者（なかでも古い住民）	町の名士（委員会で決定）	寄付者、あるいは委員会で選出	寄付者
勝者への褒美	ゲームで使われたボール、他にゲーム中の得点者には賞金が授与される（第1 & 2ゲームは£10、第3ゲームは£20、またグッドプレイヤーには£2）	ゲームで使われたボール（勝者の名前が Hardwick Arms というパブの勝者ボードに刻まれる）	ボールに描かれた絵や文字を再度ペイントし、勝者に授与	ゲームで使われたボール、トロフィー、そしてパブで友人や親族にビールが振る舞われる（パブの入り口は警官が立ち、入場には許可がいる）	ゲームで使われたボール、そして自分が属するチームのテリトリー内にあるすべてのパブでハーフパインのビールを無料で飲むことができる
審判の存在	あり（各チームから2人：計4人のアンパイア）	なし	なし	委員会のメンバーが採め事を取め、家屋などの損壊を防いでいる	なし

英国イングランドに残存する民俗フットボールについて

St Columb Major	St Ives	Haxey	Hallaton	Corfe Castle
4,000	11,000	4500	500	1,500
告解火曜日 & その翌週の土曜日	St.Ives 祭（キャンドルマス・デイ前の日曜日）後の月曜日	1月6日（旧暦のクリスマス）	復活の月曜日（復活祭の翌日）	告解火曜日
午後4時30分開始、通常2〜3時間、午後8時にスタート地点（Market Square）で勝者を確認するセレモニーがあり、その後バブでシルバー・ピアが振る舞われる	午前10時30分に開始、12時を過ぎた時点でゲームは終わり、ボールを保持していた少年 or グループが Guildhall にボールを持ってくる	午後3時15分に開始（ただし、11:30に4つのバブを巡回するセレモニーが始まる）、通常3〜4時間（2:45頃から The Running Hood game、3:15 から The Sway Hood game がスタートする）また、Fool という道化師がセレモニーを先導 ※ Sway- スクラム	午後3時に開始（ただし、ゲーム前に町中をバレードするなどセレモニーは11:00から）、通常3〜4時間（ゲームはボトル・キッキングと呼ばれる）	午後12時から石工職組合の会議（年次総会）が始まり、2時過ぎからかつての民俗ゲームのセレモニーが始まる、セレモニーは30分程度
制限なし（実際は高校生以上）	小中学生	制限なし（実際は高校生以上）、Running Hood は少年少女対象	制限なし（実際は高校生以上）	組合の会議で承認された見習い職人（20歳代から40歳代）2名程度 & 会議参加者30〜60歳代
各日に1個	1個	The Running hood：12個の疑似 Hood、The Sway Hood は革製の円筒形の Hood を1個	3つのピア樽（2個は茶色の樽、1個は3色カラー、カラーの樽は2番目のゲームに用いられる）	1個
直径84mm、重さ567kg、中にリンゴの木くずを入れ、厚さ2mmの銀のプレートで覆われている（シルバー・ボールと呼ばれ、クリケットボールより少し大きい、ボールには“DO YOUR BEST TOWN AND COUNTRY”と刻まれている）	St Columb Major で使用されているボールとほぼ同じ銀のプレートで覆われ、大きさはひと回り小さい（クリケットボール大）	The Running hood：亜麻の袋を円筒型にまとめたもの、The Sway Hood は革製の円筒形で直径3インチ、長さ24インチ、中に太いなが詰められている（どちらも何の装飾もなく、また何も描かれていない）	3つのピア樽はどれも高さ27cm、幅20cm、2個の茶色の樽にはビールが入っており、重さ約5kg、3つ目は赤・白・青の3色で塗られ、約3.5kg	市販のサッカーボール
Town vs Country	チーム区分なし（個人あるいはグループ）	Haxey vs Westwooside（ただし、Haxey は3つバブそれぞれを支援するチームが形成される）	Hallaton vs Medbourne	なし
町全体	町全体（時折、海の中でも展開）	二つの町及び二つの町の間のストリート、牧草地（ゲームは Hare Pie Bank という両町の間にある地点からスタートする）	二つの町及び二つの町の間のストリート、牧草地（ゲームは Hare Pie Bank という両町の間にある地点からスタートする）	Town Hall をスタートし、そこから牧草地、ストリートを通じて再び Town Hall に戻ってくる
Town: St Columb の中心から南西に1マイルの Cross Putty というジャンクションにあるマイル標の横、Country: St Columb の中心から北東に約1マイルの Tregamere Turn というジャンクションにあるマイル標の横（このゲームはゴールにボールを置くか、St Columb の教区外に出るかどちらかでゴールとなる、最小約1.8マイル 最大約3.5マイル）	ゴールなし	Westwoodside は Carpenters Arms、Haxey は Duke William/The Loco/Kings Arms の3つのバブのどれか（フードをバブの中に持ち込み店主にそれに触るとゴールとなる）、約1.5マイル	両町の間にあり、スタートポイントから最短距離となるそれぞれの町を流れる小川を越えた地点（3つのボトルのうち2個のボトルをゴールしたほうが勝ち）、約1.5km	約2km
70〜80人	約50人	150〜200人	約100人	10〜20名（上記の1〜3名を含んで）、ボールを適当にパスをしながら、定められたコースを移動する
可（参加している姿はほとんど見られない）	可（積極的にボールに関わることはない）	可（時折、女性がスクラムの外から押している場面を見る）	不可	不可
明文化されていない	明文化されていない	明文化されていない	明文化されていない	なし
なし	なし	なし	Hallaton's Bottle-Kicking	Purbeck の大理石職人・石工職人組合
住民からの寄付	カウンスルからのサポート	住民からの寄付（ゲームの数週間前から Fool と Boggings がバブを回るなど募金活動を行う）、地域のチャリティによる援助	住民からの寄付	組合から支援
寄付者	町長（Mayor）	The Running hood で用いる12個のフードはゲームの首長によって、The Sway Hood では公爵がフードを投げ上げる	Master of the Stowe	なし
ゲームで使用されたボールを所有したならば、翌年その代替のボールを用意しなければならない、そして Town Hall の勝者ボードに名前が刻まれる、またゲーム後にボールを持って回る3つのバブで勝者とチームメイトにボールが提供される（シルバー・ピア：ボトルにボールを入れて飲み、幸福を分かち合う）	勝者（グループ）はボールを返し、その代わりに銀貨を受け取る（£5相当のもので、かつては銀製の王冠が授けられた）	Running Hood: 赤い服を着た Boggins と呼ばれる人たちが回りを回っているのをすり抜けると、£2授与される	ゲームで使用されたピア樽（勝者は村の中心にある Buttercross にあるモニュメントの上に登り、勝者であることを宣言した後、樽中のビールをチームメイトや仲間、見物人に分け与える）	見習い職人を祝うイベントとしてセレモニーが行われる
なし	なし	審判に近い存在として、11人の Boggins が採め事を収め、家屋などの損壊を防いでいる	なし	なし

FOOTBALL DAY SHROVE TUESDAY

The Ancient Game of FOOTBALL will be played as heretofore on the NORTH DEMESNE on

FEBRUARY 20th, 2007

by kind permission of

HIS GRACE THE DUKE OF NORTHUMBERLAND

LORD OF THE MANOR

COMMITTEE OF MANAGEMENT

Mr T.W. Pickard
(Chairman)
Mr E. Hately
(Vice Chairman)
Mr R.A. Bingham
(Secretary)
Mr P. Smith
(Treasurer)
Mr J. Ainsworth
Mr M. Armstrong
Mr J. Balmbray
Mr C.R. Brown
Dr C. Brown
Mr S. Cairns
Mr E. Carlisle
Mr T. Carter
Mr G. Castle

Mr T. Claxton
Mr A. Davidson
Mr P. Deakin
Mr J.W. Deeble
Mr A. Dodds
Mr F. Dyson
Mr P. Edgar
§ Mr B. Egddell
Mr S.R. Egddell
Mr R. Farnsworth
Mr N. Forster
Dr A. Fortune
Mr H. Foulger
Mr G. Frank
Mr G. Frater
Mr R. Graham
Mr R.R. Graves

Mr W.A. Green
Mr W.F.P. Hugonin
§ Mr D.A. Hurrell
Mr A. Ions
Mr D. Jackson
Mr A. Jenkins
Mr C. Jobson
Mr B. Kim
Mr G. Knox
Mr A. Lawson
Mr P.T. Lee
Mr P. Lewis
Mr A. Lindsay
Mr N. Luke
Mr W. Newbegin
Mr R. O'Brien
Mr W.L. Proudlock

Mr I.A. Robertson
Mr W. Robinson
Mr M. Sergeant
Mr W. Sherman
Mr A.J. Smith
Mr D. Stephenson
Mr R.G. Swan
* Mr R. Taylor
Mr E. Telford
Mr J. Thompson
Mr P. Turnbull
Mr R. Waugh
Mr M. Whinham
Sir J. Willis
* Mr R. Wilson
Mr W. Wilson
Mr J. Wright

LINESMEN:

Mr M. Armstrong
Mr S. Cairns
Mr G. Castle
Mr P. Edgar
Mr B. Egddell
Mr S.R. Egddell
Mr R. Farnsworth
Dr A. Fortune
Mr N. Foster
Mr R.R. Graves
Mr A. Green
Mr A. Jenkins
Mr P. Lewis
Mr W. Newbegin
Mr W. Robinson
Sir J. Willis

* Umpires: St. Paul's

§ Umpires: St. Michael's

Trumpeter: D. Jackson

Prizes of £10 will be awarded to the winners of the first and second Hales and £20.00 to the winner of the THIRD or Conquering one.

Up to 20 prizes of £2.00 will be awarded in recognition of Good Play.

The Match to be played between persons resident in the Parishes of St. Michael's and St. Paul's (as formerly established).

BYE-LAWS as below

The Football will be received at the Barbican of the Castle by the Committee at 2.00 p.m., the match to begin at 2.15 p.m.

N.B.: The Prizes will be given to those Persons ONLY who have been actively engaged in the match

BYE-LAWS

1. The Ball shall be received at the Barbican of the Castle by the Committee who shall then convey it to the North Demesne, proceeded by His Grace's Piper.
2. The Hales shall be in the North Demesne, a furlong apart.
3. The game shall be played in two periods of 30 minutes each; if the score is then even, a final period of 45 minutes shall be played. However, immediately a Hail is confirmed by the Umpires a period is ended.
4. The honour of kicking it up in the centre of the Hales shall be given to the victor of the former year (if available), or to a person elected by the Committee.
5. The Committee shall appoint Umpires who shall be judges of fair play and the scorers of Hales; in the event of the Umpires not agreeing on any appeal the decision of the Committee shall be final. Whenever the Umpires cause the trumpet to be sounded, the ball shall be considered DEAD. Should the Ball at any time be declared DEAD at or near the Hales, the Umpires shall cause it to be taken a sufficient distance in a straight line from the Hales, before coming again into play.
6. The ball shall be KICKED ONLY, and shall not be carried, thrown or jerked from the hand at ANY TIME during the game.
7. Any person loitering near Hales, or kicking against the Parish in which he resides, will be disqualified from participating in any reward. Persons resident outside Alnwick will be deemed a St. Paul's player if residing to the west of the A1 and a St. Michael's player if to the east of the said A1. If in doubt, consult a member of the committee (wearing rosettes).
8. At the end of the game the award Ceremony will take place. THE BALL SHALL REMAIN THE PROPERTY OF THE COMMITTEE THROUGHOUT until such time that the Chairman declares the result of the game and then releases the Ball from the Committee's charge and ONLY THEN it shall become the property of whoever carries it out of the North Demesne.